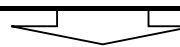


平成31年度(令和元年度) 学校経営方針及び目標設定

○内部評価委員会:平成31年4月25日(木)

※外部評価委員会:令和元年5月20日(月)

教育方針	校訓「自律・創造・協調」を基調とした教育をとおして、農業県・宮崎における実践農業の教育機関として、将来、本県の農業を担う人材を育成する。
------	--

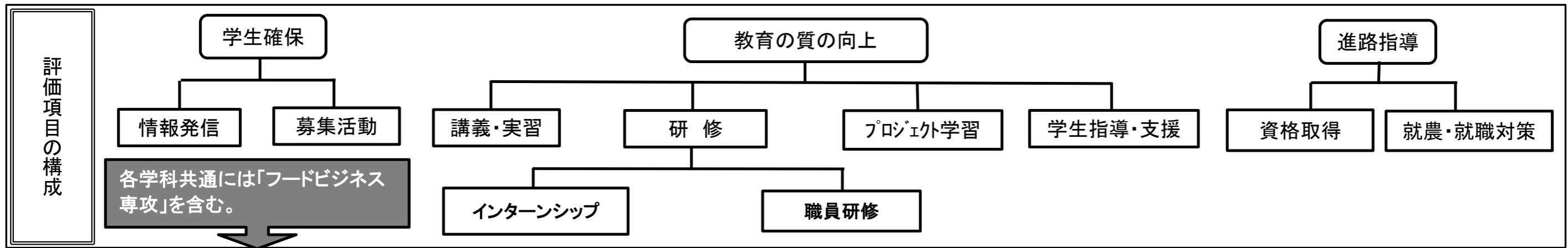


学校の教育目標	①「生産する力(生産技術)」をはぐくむ。 ○講義、演習、農場実習で「生産する力」の定着を図る。 ○インターンシップ、自主企画研修等の校外学習で「生産する力」の向上を図る。
	②「経営する力(経営スキル)」をはぐくむ。 ○農業経営科目の講義や農場実習で「経営する力」の定着を図る。 ○校外学習や『模擬会社』で「経営する力」の向上を図る。
	③「課題を解決する力(課題を見つけ計画的な取組で解決する力)」をはぐくむ。 ○専攻実習における『プロジェクト学習』で「課題を解決する力」の定着を図る。 ○『地域連携型プロジェクト学習』で「課題を解決する力」の向上を図る。 ※高校、農家・農業法人、関係機関等とのコンソーシアム方式による連携・共同プロジェクト学習
	④社会性をはぐくむ。 ○農家・農業法人における研修、企業連携新商品開発、流通・販売学習をとおして、地域社会において積極的に活動し、「ネットワークを構築する力」の定着を図る。 ○『地域連携型プロジェクト学習』をとおして「社会で活躍する力」の向上を図る。 ○学生自治会活動や寮生活をとおして「コミュニケーション力」や「協調性」の向上を図る。



各学科が育成する人材像	農学科	畜産学科
	本県で主に栽培されている品目を教材に取り上げ、その特徴や栽培技術、商品化技術、農産物の加工・販売についての実践学習を通して、確実な生産技術と経営スキルを身につけ、将来、本県農業に夢を持って意欲的に取り組む人材を育成する。	本県で主に飼育されている畜種を教材に取り上げ、その特徴や飼育管理・繁殖管理・肥育管理技術、出荷の方法、畜産物の加工・販売についての実践学習を通して、確実な生産技術と経営スキルを身につけ、将来、本県畜産業に夢を持って意欲的に取り組む人材を育成する。
	フードビジネス専攻	
作物、野菜、果樹、畜産物などの素材生産から、その素材を利用した食品加工、県内食品業者との連携による新商品開発、模擬会社システムによる流通・販売に至るまでの学習を通して、これからの新たな農業ビジネスに幅広く対応できる柔軟な発想力とスキルを身に付ける。		

(宮崎県立農業大学校)



評価項目		担当	平成31年度目標	目標達成のための取組(☆は新たな取組又は強化する取組)	昨年度の主な実績・成果と課題
学生確保	情報発信	教務学生課	○学校HP、SNS、マスコミを活用した積極的な情報発信	○学校HPの定期的な更新及びSNSを活用した教育成果や学校行事の発信 ○マスコミや農業団体等への教育成果や学校行事の情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ●受験者数が減少。農学26名、畜産36名 計62名が受験し、H31年度志願者倍率は0.95倍だった。(昨年度は95名受験)特に農学科の受験生減が顕著だった。二次募集は2名志願し、1名受験(合格)。 ●情報発信としてのFacebookの投稿数が少なく、随時発信に向けた対応を検討する必要がある。
	募集活動	教務学生課	○農大校教育に理解と意欲のある入学者の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○学校説明会等の高校生向け進路ガイダンスへの積極的な参加とオープンキャンパスの開催 ○農業学科・系列担当教諭の授業参観及び意見交換会の実施 ○農業系高校生の積極的な訪問の受け入れ <ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業に関する授業等への高校生の参加 ○高校生とその保護者や高校教職員へのアンケートの実施と分析 ☆募集活動用グッズの提案 <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット・リーフレットの見直し ・農大ロゴ入り手提げ袋やクリアファイル等の検討 	
教育の質の向上	講義・実習	教務学生課	<ul style="list-style-type: none"> ○指導力の向上による教育内容の充実 ○教育環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・人的配置及びハード面の充実 ・カリキュラムの整理 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導力向上研修の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校教諭の授業参観 ・授業改善のための研修会の開催 ・学生による授業評価の実施と分析 ○企業、大学、法人、自治体と連携した教育の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・2カ年間の教育目標、教育内容、体制の検証と改善 ☆農大校規則並びに管理運営要領の適正な運用を支える教務内規の整備 ○最新情報処理教育を見据えた、情報処理室の更新 ☆「農大校あり方検討委員会」の設置による、中長期的な方針の策定 ☆新たな教育システムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業評価により学生の理解度を把握することができ、授業改善に役立てることができた。 ○新教育計画に沿って、スムーズなカリキュラム(教育課程)の運用ができた。2ヶ年間の問題点の改善し、次年度の教育計画に活かした。 ●授業に対する取組が悪い学生が見受けられ、その改善が課題となっている。

評価項目		担当	平成31年度目標	目標達成のための取組(☆は新たな取組又は強化する取組)	昨年度の主な実績・成果と課題
教育の 質の向上	講義・実習	農学科	<p>○実践学習による本県主要作物の生産技術と経営スキルの習得</p> <p>○ICTを活用した先進的な農業技術の修得</p> <p>○適正な農場管理手法の習得</p>	<p>○農産物生産力向上のための農場長制度を活用した自主的な運営の実施</p> <p>○進路実現に繋がるインターンシップや自主企画研修、校外学習の実施</p> <p>○地域の教育力を積極的に取り入れた実践的なカリキュラムの実施</p> <p>○実践的な販売力を身につけるための地域イベントへの積極的な参加(模擬会社との連携)</p> <p>☆作物・果樹専攻・・・ひなたGAPの取得</p> <p>☆野菜専攻・・・ASIAGAPの取得</p> <p>○企業・大学等と連携したICT教育</p>	<p>○ひなたGAP取得、GAPに対応した集荷施設が完成した。</p> <p>○生産農場の自主的な運営により、出荷状況の見える化が可能となり、学生の取り組み意欲(経営に対する感覚)が高まった。</p> <p>○ICT関連については、講義や現地研修を通して最先端技術を学ぶことができ、更に、ほ場毎の生育及び管理状況が記録できる原価計算システム(NEC)を3月から運用できる体制が構築された。</p> <p>○アグリビジネスやチャレンジファーム等、地域の先進的な取り組みを学ぶことができた。</p> <p>○農場長制度とアグリカレッジひなたとの連携により経営スキルを向上させる販売実習を行なうことができた。</p> <p>○11月にひなたGAP(野菜7品目)の認証を取得することができた。</p> <p>●今後、更に、レベルアップを図る必要がある。</p>
		畜産学科	<p>○実践学習による本県畜産に関する生産技術と経営スキルの習得</p> <p>○ICTを活用した先進的な農業技術の修得</p> <p>○適正な農場管理手法の習得</p>	<p>○畜産関係団体、畜産関係企業、畜産法人等と連携した実践的な講義や研修、校外学習の実施</p> <p>○生産現場の運営強化による生産性の向上</p> <p>○企業や「アグリカレッジひなた」と連携した実践的な販売実習の実施</p> <p>☆GAP取得チャレンジシステムの登録</p> <p>○企業・大学等と連携したICT教育</p>	<p>○肉用牛、酪農、養豚の各専攻において、生産技術と経営スキルを習得することができた。</p> <p>●GAPでは約半数の項目について自己点検を実施し、牛舎内にヘルメットを架ける場所を設けて機械作業前に着用する取組等を行った。来年度はさらにレベルアップして全ての項目の点検を行う。</p> <p>○実践的な技術にふれさせたり、経営管理能力の重要性を認識させることができた。</p> <p>○生産物の直販畜産物に対する消費者意識や消費動向を学んだり、販売スキルが身についた。</p>
		フードビジネス専攻	<p>○食品加工から流通・販売までのフードビジネスに幅広く対応できるスキルの修得</p>	<p>○食品の機能性など食品に関する知識の習得をめざし南九州大学と連携した講義の開催</p> <p>○官能評価など最新設備を備えた食品開発センターにおける実習</p> <p>○一般社団法人みやPECと連携した講義実習 ※新商品の開発(トッパパティエによる県産果実を利用した菓子製造技術の向上)</p>	<p>○食品製造実習に力を入れた結果、商品アイテム数が昨年度と比較し大きく増加した。(H29:8アイテム26種類→H30:12アイテム44種類)</p> <p>○製造した食品の製造から販売までの基本知識(食品表示や賞味期限設定、価格設定など)等、フードビジネスに関する実践的な知識を深めることが出来た。</p> <p>○模擬会社の運営を通じて、価格設定の重要性を認識すると共に、イベント等の直接販売を通じて、コミュニケーション能力の向上につながった。初年度であるが、黒字で終了することが出来た。</p> <p>○会社の運営強化のために、POP広告クリエイター検定や商業簿記への挑戦など、学生の意欲の向上にもつながった。</p>

評価項目		担当	平成31年度目標	目標達成のための取組(☆は新たな取組又は強化する取組)		昨年度の主な実績・成果と課題	
教育の 質の向上	研修 (インターンシップ)	教務学生課	○効果的なインターンシップの実施	☆インターンシップ受入れ先と学生の双方向の評価の実施と分析		○高校生が農大生と一緒に研修を行うことで、農大への関心・進学意識を高めることができた。また、高校生のキャリアデザインや農業法人への理解が深まった。	
		各学科共通	○学生のニーズに対応したインターンシップの実施 ○インターンシップの研修効果をさらに高めるための連携強化	○インターンシップ受入れ先の巡回 ○新たな受入れ先を加えた研修先のデータベース化			
	研修 (職員研修)	教務学生課	○授業力及び学生指導力の向上 ○担当分野の専門力向上	教務学生課	○授業力向上等、学生を指導するためのスキルを高める研修会の開催 ○「学生による授業評価」の実施及び分析結果の公表		/
		各学科共通		各学科共通	○校内研修会への全員参加 ○校外で実施される研修会の情報収集と周知		
	プロジェクト 学習	教務学生課	○高大連携事業を通じた農大生のプロジェクト学習の充実	○国の補助事業を活用した農業高校と連携したプロジェクト活動の支援(新規就業意欲喚起・相談等支援事業の活用) ○高鍋農業高校との高大連携会議や部門別会議の開催		●高大連携したプロジェクト学習を展開することで、5ヶ年間の充実した学習を展開しているが、学科や部門により取組に温度差が生じている。内容を精査し、さらには対象校を広げるなどさらなる充実を図っていくことが必要である。	
		各学科共通	○地域課題を踏まえたプロジェクト活動の実践 ○自ら課題を発見し、解決できる能力の向上 ○課題解決能力の向上による優れた農業経営者等の育成	農学科	○農業高校と連携した地域連携型プロジェクト学習の実施 ○地区技術員会(関係機関)との連携による課題解決に向けた取組の実施		
畜産学科				○企業や農業高校等と連携したプロジェクト学習の実施		○全員がプロジェクトの成果を取りまとめることができた。九州大会への出場はなかったが、課題解決能力の向上に繋がった。	
各学科共通	各学科共通	各学科共通	フードビジネス専攻	○企業や農業高校等と連携したプロジェクト学習 ☆模擬会社の運営を通じたプロジェクトの実施		○同機構のスイーツプロジェクト(宮崎市内の高校・専門学校・大学が対象)において、「芋とゴマのチーズまんじゅう」が最優秀賞を受賞するなど、レベルの向上にもつながった。(応募数206品)10~11月にかけて、市内菓子店において実際に販売された。 ○プロジェクト活動を通じて、県産農産物の状況や活用方法など課題解決方法を学ぶことが出来た。 ○食品企業との連携により、実践的な技術に触れることにより、食品関係で活躍する担い手として意欲が高まった。 ○知的財産権(特許や意匠)など商品開発に必要な実践的な知識や技術を学ぶことが出来た。	

評価項目		担当	平成31年度目標	目標達成のための取組(☆は新たな取組又は強化する取組)	昨年度の主な実績・成果と課題
教育の質の向上	学生指導支援	教務学生課	○学生の自治能力の向上及び規範意識の向上 ○学校と後援会(保護者)とのネットワーク強化	☆学生自治会による規則の見直し ・学生自治会規則及び学生寮自治規則 ☆学生寮自治規則の反則点(減点)運用の検討 ☆学生心得の見直しと学生への周知 ☆便利なメールシステムの導入	○学生の自主性、自立性や企画・運営力、社会性が身についた。 ●規範意識が希薄な学生が多く見受けられるようになり、寮規則や指導体制の見直しが必要である。
		各学科共通	○農場長制度の充実やGAPの取組の徹底 ○学生自治会規則及び学生寮自治規則の周知と徹底	○農場長制度やGAPの取組の見える化 ・表示等の充実と点検結果の公表 ○学生による学校生活に対する自己評価の実施及び評価結果の公表	
進路指導	資格取得	教務学生課	○「教育計画」に基づく実践力の習得 ○新たな資格取得	○各種資格の情報提供及び更なる資格取得の推進 ・日検情報処理検定の受験 ○各専攻の基本となる資格の取得 ・全学生・・・大特100%、農業簿記3級100% ・全フード学生・・・安全衛生責任者100%取得 ・情報処理検定の実施 ○無人航空機の飛行に係る許可申請手続き ・本校での実地試験実施の研究 ・各学科のニーズ収集	●各専攻の基本となる主な資格取得は、大特95.3%、食品衛生100%、農業簿記27.0%だった。学生はもとより指導者の意識改革と指導体制の構築が必要である。
	資格取得	学科共通	○農業経営及び就職に必要な資格取得等の推進	○各種資格の情報提供 ・時間外ゼミによる資格取得に向けた支援	農学科 ○将来必要と思われる資格の取得をすすめ、試験対策を実施した。 ○資格取得を進めた結果、意識の高まった花専攻の学生2名が技能五輪に推薦され、内1名が銅賞を受賞することができた。 ・日本農業技術検定:3級7名、2級3名 ・農業簿記:3級14名、日商簿記:3級4名 ・危険物乙種4類:1名、4類以外:2名 ・フラワー装飾3級:4名、2級:2名 ・グリーンマスター:5名
			○6次産業化や食関連産業への進路を見据えた資格取得の推進	○進路決定に有利な資格取得に向けた授業や時間外ゼミの実施 ・食品安全検定、食品衛生責任者養成研修 ・農業経営集中講座(国庫事業活用) ・食品表示検定、POP広告クリエイター検定	
				フードビジネス専攻 ○食品衛生責任者 1年9名取得 ○初級食品表示診断士 1名合格 ○POP広告クリエイター検定 20名合格(1年8人、2年15人) ○就職活動において、食品に関する資格取得について、企業からの高評価を得られた。特に、食品表示検定、食品衛生責任者は高評価であった。	

評価項目		担当	平成31年度目標	目標達成のための取組(☆は新たな取組又は強化する取組)	昨年度の主な実績・成果と課題						
進路指導	就農・就職 対策	教務学生課	<ul style="list-style-type: none"> ○年内の進路実現100% ○就農支援体制の強化による、就農率60%以上の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導計画に基づいた、早期の取り組みと、学生への意識付け ○ハローワークとの連携による、個別指導の徹底 ○進路指導委員会の定期的な実施と職員間の情報共有化 ○フードビジネス関係の進路開拓の実施 ○法人との就職相談会や、職場体験の実施 ○農業次世代人材投資資金の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路決定率98.5%。1名未決定。 ●目的意識の希薄な学生に対する早期の意識付けが必要である。 ●就農率54% ・即就農9名、研修後就農1名、雇用就農27名 						
		各学科共通	<ul style="list-style-type: none"> ○自主的な進路情報収集能力の育成と自立支援 ○農業に夢を持って意欲的に取り組む人材の育成 ○宮崎県の農業及びフードビジネス産業等を支える人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路決定に向けた個別面談の実施 ○1年次から進路指導計画作成及び計画に基づく進路指導の実施 ○教育活動を通じた自立支援 ○就農希望者に対する農業改良普及センターや自治体、就農コーディネータと連携した就職支援 ○希望者を対象とした試験対策の実施 ○学生個人の進路設計のサポート ○フードビジネス関連団体や企業と連携した講義や研修の実施 ○コミュニケーション能力向上のための地域イベントへの積極的な参画 	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">農学科</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○将来について、方向性が明確になっていない学生もいるが、面談等を行いながら、アドバイスすることができた。 ○自主的に情報収集できるよう助言しながらサポートすることができた。 ○2月末時点で、39名中37名の進路が決定した。(就農16名、就職18名、進学3名、未定2名) ●全員の進路を早めに決定する。 </td> </tr> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">畜産学科</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○現時点で30名中29名の進路が決定し、1名が未定。就農率は82%と担い手確保、育成に繋がった。内訳は、即就農5名、法人就農15名、農業団体1名、公務員1名、農業・食品関連5名、海外研修生1名、進学1名。 </td> </tr> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">フード ビジネス 専攻</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○内定後の研修であったため、就職前における職場での心構えやお客様とのコミュニケーションの取り方等、研修成果が見られた。 ●マッチング会に参加する県内の食品関連産業は少なかったため、来年度も引き続き、学生の進路実現に向けて、働きかけを強化する必要がある。 ○県内におけるフードビジネスを支える食の担い手として、農業法人や食品関連企業への就職が決定した。 </td> </tr> </table>	農学科	<ul style="list-style-type: none"> ○将来について、方向性が明確になっていない学生もいるが、面談等を行いながら、アドバイスすることができた。 ○自主的に情報収集できるよう助言しながらサポートすることができた。 ○2月末時点で、39名中37名の進路が決定した。(就農16名、就職18名、進学3名、未定2名) ●全員の進路を早めに決定する。 	畜産学科	<ul style="list-style-type: none"> ○現時点で30名中29名の進路が決定し、1名が未定。就農率は82%と担い手確保、育成に繋がった。内訳は、即就農5名、法人就農15名、農業団体1名、公務員1名、農業・食品関連5名、海外研修生1名、進学1名。 	フード ビジネス 専攻	<ul style="list-style-type: none"> ○内定後の研修であったため、就職前における職場での心構えやお客様とのコミュニケーションの取り方等、研修成果が見られた。 ●マッチング会に参加する県内の食品関連産業は少なかったため、来年度も引き続き、学生の進路実現に向けて、働きかけを強化する必要がある。 ○県内におけるフードビジネスを支える食の担い手として、農業法人や食品関連企業への就職が決定した。
		農学科	<ul style="list-style-type: none"> ○将来について、方向性が明確になっていない学生もいるが、面談等を行いながら、アドバイスすることができた。 ○自主的に情報収集できるよう助言しながらサポートすることができた。 ○2月末時点で、39名中37名の進路が決定した。(就農16名、就職18名、進学3名、未定2名) ●全員の進路を早めに決定する。 								
畜産学科	<ul style="list-style-type: none"> ○現時点で30名中29名の進路が決定し、1名が未定。就農率は82%と担い手確保、育成に繋がった。内訳は、即就農5名、法人就農15名、農業団体1名、公務員1名、農業・食品関連5名、海外研修生1名、進学1名。 										
フード ビジネス 専攻	<ul style="list-style-type: none"> ○内定後の研修であったため、就職前における職場での心構えやお客様とのコミュニケーションの取り方等、研修成果が見られた。 ●マッチング会に参加する県内の食品関連産業は少なかったため、来年度も引き続き、学生の進路実現に向けて、働きかけを強化する必要がある。 ○県内におけるフードビジネスを支える食の担い手として、農業法人や食品関連企業への就職が決定した。 										